

フィリピン研修旅行記 新潟県郷友会 会長 山田フヨ

令和元年12月7日（土）～11日（水）の5日間、なぜこの時期なのと思ったら旅行会社の社長さんが太平洋開戦日に合わせましたと、なるほど。

12月6日（金）皇居の大嘗祭の建物を見学して成田駅近くで前泊。

フィリピンといえば、サンケイツアーで鹿児島県に行ったとき、フィリピンで亡くなられた兵隊さんの立派な慰霊碑を見ました。群馬県護国神社や千葉県護国神社にもフィリピンで亡くなられた兵隊さんの慰霊碑がありました。

大勢の兵隊さんが行かれたということは、それほどにフィリピンは日米にとって地理的に重要な場所だったのだろうと思いました。

7日（土）成田空港7時集合。ルソン島マニラ空港経由でレイテ島タクロバン到着は夕方。じっとり暑かった～。

現地のガイドさんは日本人で40年前にフィリピンの男性と結婚し、ガイドの仕事をしてながら子供さんを育てたとのこと。青木さん（旅行会社の社長さんが添乗員で頼もしく安心）から「ガイドさんは高齢だから…」と聞いたが、私と同年くらいで若い。

プロらしく情報収集されていたがフィリピンにいと限界あるようで、この旅行での記録はガイドさんからの受け売りで、フィリピン人に行き渡っている内容はこんな現状とと思ってください。

8日（日）大東亜戦争開戦日。5時にモーニングコール、6時に朝食、7時に出発。レイテ島を朝7時から夕方5時半まで一日走り回って、残りの5分の4は断念。レイテ戦は世界の激戦地ベスト3に入る重要な島。フィリピンでの日本人戦死者51万人でフィリピン人の戦死者は100万人だが、米国軍による無差別攻撃や誤爆による被害が半分以上。

フィリピンはスペインに340年間、アメリカに30年間植民地にされ、日本に2・5年間占領された。レイテ島には米軍政府があり、バターからマッカーサーがここに戻り終戦宣言を行ったので、彼ら7人の像が島のあちこちにあった。

その建物は現在県庁舎になっている。損害を与えた日本に対してフィリピンは強い反日でしたが、日本がまじめに戦後賠償を行い、その後はODA総額2兆円でフィリピンの半分のインフラ整備を行ったり、ジャパユキさんとして働いた娘さんたちが祖国に帰り日本の良い印象を広めてくれたり、カトリックの教えがフィリピン人たちの反日感情を徐々に変えていき今は親日とのこと。



戦争の最後は、米軍がフィリピンのゲリラに最新鋭の武器や食料・医薬品等を空から与えて、補給が途絶えてフラフラの日本兵と戦った。フィリピンの新聞には、何のための誰との戦いだったのかと米軍が書いたそうです。神風特攻隊も参戦し、戦艦武蔵は近くに沈んでいる。どこの場所かはっきりしないのですが、山の近くの藪を入っレイテ島にあるところに小屋がありその中に慰霊碑があるが、その小屋の横に千葉県護国神社の宮司さんの名前で慰霊碑があった。日本国内でも英霊顕彰者が少なくなっているが、ましてや外国となると続けるのは難しくどうしたものかなあと戦地を訪ね歩くたびに悩む。

マルコス夫人は今もレイテ島の議員をしているとか。私有財産が半端ではない。

9日（月）3時にモーニングコール、4時に集合・出発、

6時半発の飛行機でルソン島マニラに到着。日本政府が建てた慰霊碑の場所はマニラから110キロ離れた山の上、渋滞もあり3時間揺られて到着。フィリピン人の反日感情に配慮して遠くに建てたらしいが、わりときれいに管理されていた。ここで慰霊祭を行った。

日本軍は米軍と戦ったはずだが、フィリピンが日本軍と戦いそして勝ったことになっていた。ガイドさんが説明するには、日本軍は散々に残虐なことをした、バターン死の行進などは最たるものだ。戦後賠償は憎い日本から取れるだけたくさんとてやろうと数兆円を要求したが、当時その金額は日本の国家予算の2から3倍、交渉は難航し6年後の昭和31年4月に決着。日本はお金がないので20年かけて支払うこととし、道路や港湾を作ったとのこと。ということは昭和51年まで続いていたわけですか。「日本はなぜ負け戦をとことんやってしまったのか、早く降参すれば良かったのに、被害を大きくしただけではないか」とガイドさんに言われ、うまく説明して返せず残念。夕食時の話では、フィリピン人はカトリックだか

ら死刑はなく、許す精神と愛情があると言う。なんとファンタジーな、米国の洗脳に染まっていると感じたがこれが現実。結果として日本は負けたが、フィリピンを米国から解放したと思っている。



民家が集まった奥にポツンと山下中将の慰霊碑があった。大きな刑務所（入口の門にウェルカムとあるのはどういうこと？）の中に市民が住んでいてフィリピン人のお墓もあり、その奥のまるで公園のような場所に日本人 17 人の慰霊碑や写真、また日本からの慰霊碑もいくつかあった。使われていなかったがトイレや井戸・休憩所まであり、今は慰霊に訪れる日本人は少なくなったけれど、当時は大勢の日本人が訪れたのだろうと思われた。フィリピンは 2025 年まで経済成長を続けるだろうと、あちこちでクレーン車が見た。最近のドテルテ大統領は面白くないが、ビルド、ビルドと言って建設ラッシュとのこと。夜は外でスペイン料理、宿泊はマッカーサーが滞在していたという格式高いマニラホテル。ホテルの 1 階奥にはマッカーサーの資料室があり、ホテルの接客対応のお姉さんの説明あり。ホテルは豪華な作りで部屋も広い、トイレとバスタブと洗面台には TOTO のロゴ入り、見るからに古いですが長持ちで優れた製品なのだろうと感動しました。

10日（火）6時に朝食、早めに朝食会場に行ったが時間にならないと開かない。
7時に出発、マカオ港から船で1時間半のコレヒドール島に向かった。コレヒドール島はルソン島マニラ湾の入り口にあり、まるでお玉じゃくしの形だ。戦前は1万人の住民がいたが、開戦時に全員ルソン島に避難しそのまま戻らず、今は観光と軍隊の島になっている。小さな島だがマニラ湾への進軍を止める役割を担い、攻守が入れ替わる激しい攻防戦があった島だ。大きな倉庫の中で観光用のテープが流されていたが、内容は悪玉日本軍VS正義の米比軍。たぶんアメリカ人（見た目じゃ分らないが）観光客も多かったので、嘘の垂れ流しを聞いて気分を良くしているのかなと想像したり。外ではたくさんの蝶々が舞っていた。次に向かった日本公園には平和の碑や戦艦武蔵の慰霊碑、観音像や数門の大砲などなど、売店もありコレヒドール帽子（250ペソ）を記念に買った。



島での生産物は何もなく全て水もルソン島から運ぶ。昼食のレストランでは野良猫がご飯をねだっていた。現在はテロの侵入を防ぐために見張り番として軍隊を配置しているが、夕方には全員ルソン島に戻るとのこと（侵入は夜でしょう）。島のあちこちに武器庫や砲台がそのままにあった。アメリカがフィリピンを植民地にしていた頃は日本との関係も良かったようで、建物のセメントは日本のアサノセメントが使われていた。島のガイドのお爺さんが私たち日本人に気を使って「アサノセメント」を何十回も繰り返していた。



11日（水）6時に朝食、7時過ぎに出発、マニラ市内観光。

空軍博物館に小野田少尉の品々を収めたケースがあり、小野田さん直筆のお礼状の展示もあり。市内にスペインが作った軍令部の建物があり、日本が占領した時はフィリピン人の拷問に使ったとの説明を受けた。見学の中学生在が大勢いた。教会を二つ見た、一つは日本人の協力で補修された教会、もう一つは世界遺産になっているが待たずにすぐ入場できる教会。スペイン街はそのまま今も保存。どこかの国と違って、壊さず何でも利用する食欲さが素晴らしい。

12時にマニラ空港出発、日本へ帰国。その国その国に事情があり、歴史なんてものは国の事情に合わせて好きなように作られるんだなあ実感した。

それらの事情も分からずに自分たちと同じように日本と同じようにと考えるのは押し付けになるんでしょね。

パラオから続けて4回目の参加ですが、メンバーが固定化してきて気心も知れ楽しく旅行させてもらっています。いつもお世話様です、ありがとうございます。

戦闘のあったところを訪ね歩くので奥の方まで車を飛ばしますが、そんな場所は旅行ガイドには載っておらず行ってみないとわかりません。この場所で先人たちは戦ってくれたのかと思ってそこに立つと、感謝の気持ちでいっぱいになります。

みなさん、次回はご一緒しませんか。

（令和2年2月22日 記）